

巻頭のご挨拶

一般社団法人 北海道林産技術普及協会
会長 高橋 範行



会員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。2025年 令和7年 巳年の新春を会員の皆さまとご一緒にお喜び申し上げます。

昨年は、元旦に能登半島で大地震が発生し、先行きを不安視する幕開けとなりました。また、木材価格の値下がり以上に住宅関連資材が高騰した影響で、戸建て木造住宅の着工数は前年よりも大幅に落ち込む一年となりました。今年こそ、多少でも景気が上向きとなり、我々木材中小企業の業績回復を期待したいところです。

さて、2019年の本欄で書いたことがあります。協会会長は「外部有識者」の肩書きをいただき、年に2回、林産試験場の研究に意見を申し述べる機会を持っています。そして、その会議は道総研の決まり事の中で進められています。林産試験場との連携を深める上で、林産試験場の運営を律する道総研の仕組みを知っておくことも意味があると考え、いくつかをご紹介します。と、思います。

道総研は5年間を一区切りとする中期計画を立てて組織を運営しており、今年3月で第3期・15年目の区切りとなります。中期的な目標・計画を立て、それに基づいて各年度の業務を推進すること、業務の目標数値を決めること。道総研のこれらの仕組みは、私たち企業が新製品の開発・販売スケジュールを立てたり、売り上げの目標数値を定めたりしていることと似ています。林産試験場の研究も基本的に中期計画に沿って進められています。PDCA（計画・実行・評価・対策）という言葉があるように、計画には評価がセットになります。道総研の評価項目のいくつかには具体的な数値目標とその達成状況が示されています。わかりやすいので、その数値を取り上げてみます。

第2期（2015～2019年度）では、研究成果の活用実績、成果の発信件数、情報発信の回数など10項目について数値目標を設け、その達成状況を評価しています。たとえば、成果発信件数（学会発表、学術誌への投稿、セミナーなどでの発信）の第2期での数値目標は2,850件。道総研の研究員は700名強ですから、研究員全員がまんべんなく年4回発信することで達成される目標です。これが第3期では3,500件/年、一人当たりになると年5回に増えていきます。第2期に目標を上回る成果（3,155件、達成率110%）をあげたので、第3期の目標数値が引き上げられたのでしょう。頑張るほど目標が高くなる・・・企業と変わりのない厳しい仕組みのようです。これは、情報発信（ホームページなどを活用した情報発信、企業訪問などによる広報活動）の目標数値も同様で、第2期の1,230件から第3期は3割増しの1,660件。3割増しの目標を達成するのは容易ではないと思いますが、現在のところおおむね達成できているようで、道総研の研究者達は相当頑張っていることが感じられます。

我々企業が製品を製造するに当たっては、たとえば原料を仕入れることが必要になるように、実験・試験を行うためには材料や薬品の購入が必要になることでしょう。先立つものは資金。2022年度、道総研は11億円弱の研究費を公募型研究や受託研究など外部から得ていて、これは研究経費全体の65%を占めています。「研究経費に占める外部資金の割合」についても数値目標が示され、目標値は70%。研究の要とも言える研究経費の7割を外部から得る（頼る、という言い方ができるかもしれません）ことを目標とし、それをおおむね実現していることを驚きとともに知りました。協会が70周年事業の一環として林産試験場にお願ひした研究「道内広葉樹資源の流通動向調査と製材用途の利用拡大に向けた中径木の材質評価」も、外部資金の1件としてカウントされているのでしょう。

この研究の成果発表を兼ねた昨年4月の講演会には100名もの方々にご参加いただきました。また、講演内容についての好意的な感想を多数いただき、直接、間接に協会会員、および広くは道内の木材関連事業者の方々に役立つことが期待されます。我々は新しい知見を得、林産試験場は外部資金を獲得して研究を進めた、ということであれば、win-winのなかなか良い取り組みだったように思います。このような林産試験場との共同の仕組みが継続できないか、考えて参りたいと思います。

さて、ウッディエイジではたびたび道内の木造建築物を取り上げてきていますが、4月には山脇克彦建築構造設計（札幌市）の山脇氏による木造建築物に関するご講演を計画しております。山脇氏の作品は、当麻町役場や南幌町・はれっばなどをウッディエイジで紹介してきました。今回は、ご参加いただきやすいようにweb講演会を予定しています。

当協会は今年も林産試験場と企業の架け橋として、木材加工技術の向上とその普及に向けた活動を進めて参ります。皆さまのご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。